

米国 United States Steel Corporation の買収について



U. S. Steel 外観

日本製鉄は、2023年12月18日、日本製鉄の米国子会社である NIPPON STEEL NORTH AMERICA, INC. を通じ、米国の高炉・電炉一貫の鉄鋼メーカーである United States Steel Corporation (U. S. Steel) を買収すること、および U. S. Steel との間で本買収に関する合併契約を締結することを決定しました。

本買収は、日本製鉄の海外事業戦略に合致するだけでなく、規模および成長率が世界的に見ても大きいインド、ASEAN に加えて、先進国である米国に鉄源一貫製鉄所を持つことによるグローバル事業拠点の多様化の観点からも、大きな意義のある投資と判断しました。今後、この3つのグローバル重点拠点の拡張・充実に、企業価値のさらなる向上を目指していきます。

本買収により、日本製鉄グループのグローバル粗鋼生産能力※は約8600万トンまで拡大し、さらなる広がりを持つこととなります。日本製鉄と U. S. Steel の有する、電磁鋼板や自動車鋼板などの高級鋼製品に関する技術力を活かした製品・サービスを提供することで、顧客と社会に広く貢献し、「総合力世界ナンバーワンの鉄鋼メーカー」として共に前進していきます。

※ World Steel Association が粗鋼生産実績の対象基準としている出資比率30%以上の会社の粗鋼生産能力を公称フル能力で単純合算(2023年3月末時点)。

また、両社のカーボンニュートラルに関する先端技術を融合することによって、2050年カーボンニュートラル達成に向けてさらに取り組みを推進していきます。

なお、本買収の実行は、U. S. Steel の株主総会において承認が得られること、関係当局の承認などが得られること、そのほか合併契約に定める前提条件が満たされることを条件としています。

カナダ Teck 社が分社する製鉄用原料炭事業の持分20%取得完了について

日本製鉄は、世界第2位の高品質製鉄用原料炭サプライヤーであるカナダ Teck Resources Limited (Teck 社) が製鉄用原料炭事業を分離・新規設立する、製鉄用原料炭事業パートナーシップ Elk Valley Resources (EVR JV) へ20%出資することを決定しました。

Teck 社は同社製鉄用原料炭事業資産を新設する EVR JV に移管した上で、同社持分の77%をスイス(Glencore plc)に、同20%を日本製鉄に(日本製鉄は邦貨換算約2000億円を出資)、同3%を POSCO に譲渡し、これにより、EVR JV は日本製鉄持分法適用会社となりました。また日本製鉄は、当該製鉄用原料炭事業運営の意思決定に参画するとともに、EVR JV が生産する製鉄用原料炭の長期・安定調達を目的に、EVR JV との間でオフテイク権利契約を締結しました。

YANGLING METRON NEW MATERIALS 社のダイヤモンドライヤー「NSCarbolex® Neutral」の採用が決定

日本製鉄が提供する低CO₂鋼材「NSCarbolex® Neutral (Hマエスカーボレックス ニュートラル)」※が、YANGLING METRON NEW MATERIALS 株式会社(Metron 社)が製造するダイヤモンドワイヤーに採用されることが決定しました。

Metron 社はカーボンニュートラル実現に向けて、自社におけるCO₂排出量(Scope1)、発電時などに間接的に排出するCO₂排出量(Scope2)、原材料の製造や調達などのバリューチェーンにおけるCO₂排出量(Scope3)削減に積極的に取り組んでおり、今回、Scope3 上流における温室効果ガス排出量の削減に貢献する NSCarbolex Neutral の価値を評価いただきました。

※マスマン方式を活用し鉄鋼製造プロセスにおけるCO₂等の温室効果ガス排出削減量を割り当てた鉄鋼製品。

1470MPa級冷延ハイテンがスズキの新型車の一体型軽量Aピラーに初採用

日本製鉄は、スズキ(株)、(株)ベルソニカと共同で、新型スペーシアの軽量Aピラーの開発に取り組み、次世代鋼製自動車コンセプト「Safe®-AutoConcept (NSAC)」の先進材料である1470MPa級冷延ハイテンが初採用されました。

日本製鉄の1470MPa級冷延ハイテンは、緻密な成分設計と組織制御により高強度と加工性を両立しています。本Aピラーは、従来5部品で成形、溶接していた窓枠部分の一体成形を目指した成形深さが深い絞り部品であり、本材料の高い加工性によって絞り成形を実現。軽量化とCO₂排出量の削減、大幅なコストダウンを実現しました。



新型スペーシア
(画像提供: スズキ(株))

鉄鋼スラグを活用した藻場再生「海の森づくり」、2023年度は全国21カ所で実証試験開始

日本製鉄は、磯焼けの原因の一つとされる鉄分不足※の解消による藻場の再生・回復を通じた生物多様性保全と地球温暖化防止への貢献に向け、鉄分を供給する鉄鋼スラグ製品「ビバリー® ユニット」を実海域に設置する取り組みを行ってきました。

2023年度は、新規15カ所を含めた合計21カ所の漁業協同組合や自治体と協業し、実証試験を開始。

2022年度は、北海道(増毛町、泊村、古平町、鹿部町)、宮城県(女川町)、三重県(志摩市)の海域で施工し、繁藻を確認できました。

2023年度施工の21カ所の海域では、鉄分施肥材の設置前後での海中の鉄分濃度の変化、海藻の成長の継続的な状況調査を行うことで基礎データを集積し、さらなる藻場造成促進を図っていく予定です。

※磯焼けの原因の一つとされる鉄分不足：海藻のライフサイクルにおける成長(配偶体・胞子体の成熟)には、Feイオンが必要であることが知られており、日本の沿岸海域で過去数十年にわたり進行している「磯焼け」は、Feイオンをはじめとする栄養塩の不足が原因の一つと考えられている。

2022年度に施工実施した海域の事例

	施工直後(2022年10月)	昨年春(2023年5月)	
【北海道鹿部町の事例】 ～鹿部漁業協同組合と共同～			
【三重県志摩市の事例】 ～三重外湾漁業協同組合と共同～			

鹿部町の写真撮影：矢口港湾建設ヤグチダイバー株式会社

広報誌 バックナンバー

これまで鉄道、船、橋、缶、車などをテーマに特集を組んできました。右記二次元コードよりバックナンバーをご覧ください。



広報誌 無料で定期送付します

ご希望の方は右記二次元コードよりお申し込みください。



読者アンケートはWebでも受け付けています。

右記二次元コードよりアクセスしてください。毎号抽選で5名様に商品券2,000円をプレゼント!

